1 WEEK MASTER **6th DAY !!!**

Saturday

今日マスターすること
TODAY'S GOAL !!!

CDレーベルを作る

STEP 1 ・・(写真の取り込み
STEP 2 ・・(パターンとストローク
STEP 3 ・・(文字を加工する

写真の取り込み

このステップの流れ

Illustratorで作成したドーナッツ形のフォーマットを使って、CDレーベル（盤面）のデザインをしてみましょう。ここでは、レーベルのドーナッツ形の中に写真を取り込むテクニックがポイントとなります。

（1）レーベルのフォーマットを開く

Illustratorで作成したレーベルのフォーマットを開きます。フォーマットの作り方や保存方法が気になる人は、188ページのコラムを参照してください。

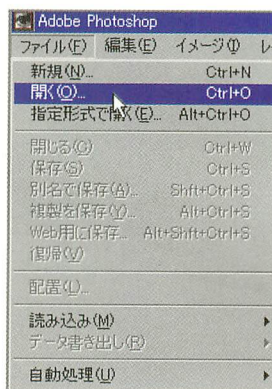
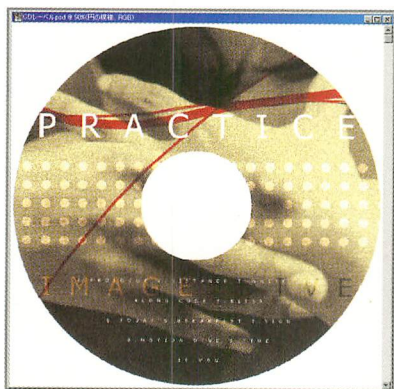
（2）手の写真を取り込む

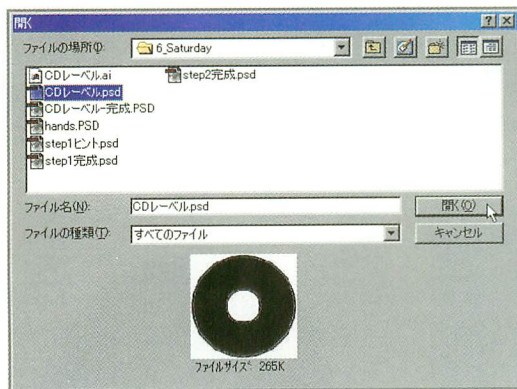
ジャケットでも使用した手の写真を取り込みます。

（3）クリッピンググループでマスクする

手の写真をレーベルのドーナッツ形の中に取り込むために、クリッピンググループという手法を使います。

（4）写真に色をつける

グレースケールの写真に、「トーンカーブ」を使って色つけします。

▲CDレーベルの完成図です。ジャケットで使用した手の写真を使って、水玉模様やブラシ線、文字で味付けをして仕上げます。

1 ［ファイル］メニュー→［開く］（Ctrlキー＋O）で下絵となる画像を開きます。

2 「6_Saturday」フォルダの「CDレーベル.psd」を選択して［開く］ボタンをクリックします。

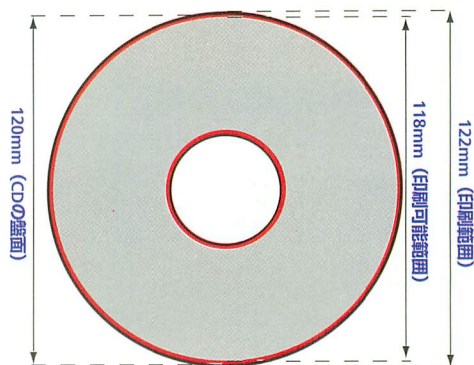
3 CDレーベルのフォーマットの画像が開きます。

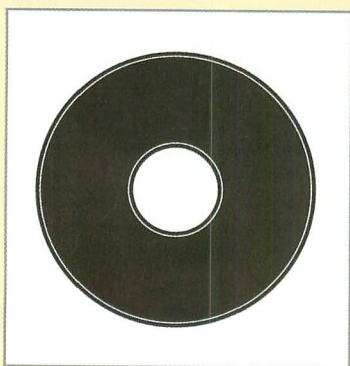
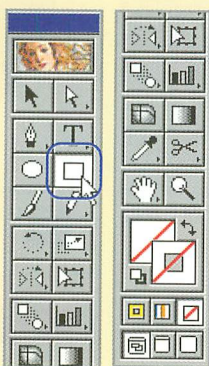
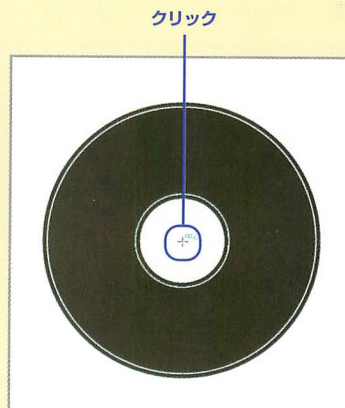
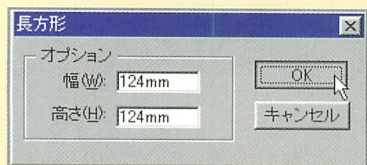
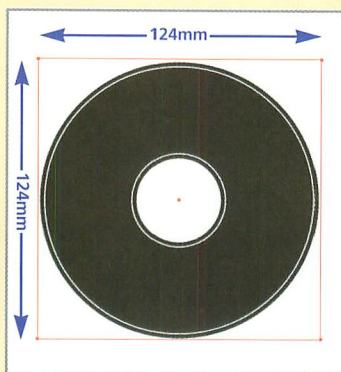
クリック

4 ［レイヤー］パレットを確認すると、3つのレイヤーがあるのがわかります。これはIllustratorで作成するときに設定したレイヤーです。実際の作業は［印刷範囲］レイヤーで行いますので、クリックして選択しておきます。

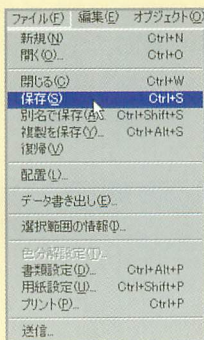
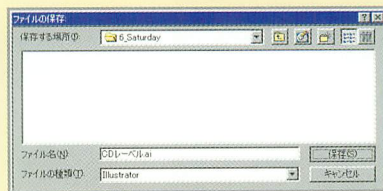
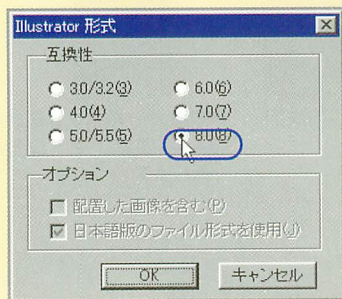
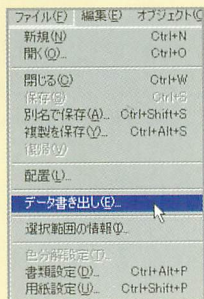
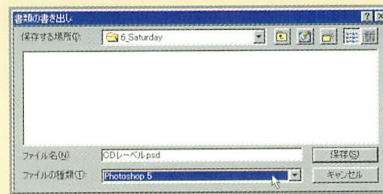
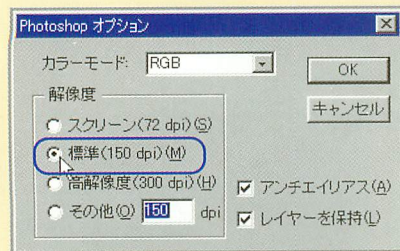
☞ヒント!!

［印刷可能範囲］と［印刷範囲］

CDの盤面は120mm×120mm（赤の範囲）ですが、プリンタの関係で、1mm内側までしか印刷できません。ここではその範囲を［印刷可能範囲］としています（グレーの範囲）。外側の122×122mmの円は、印刷時のずれを考えて、わざとはみ出して作っておこうという範囲です。ここではその範囲を［印刷範囲］としています。これは、本書で使う「CDラベルキット」（ヒサゴのラベルを使用）を使う場合のフォーマットです。実際に印刷所に入稿するデータを作る場合は、印刷可能範囲が印刷所によって異なりますので、必ず印刷所のフォーマットに従ってください。

ちょっとコラム Illustratorのデータをphotoshopに持っていく

本書で使用するドーナッツ型のフォーマットは、Illustratorで作成したものです。実際の仕事では、IllustratorとPhotoshopのやり取りが頻繁に行われます。そこで、どうやったらIllustratorでPhotoshopに取り込めるデータを作れるのか、そしてそのときに注意する点などを説明しておきます。ここでは、取り込んだ後に作業しやすいように、余白を作っておく裏ワザも紹介します。ここで使用するソフトはIllustrator8.0です。

1 Illustratorで、図のようなCD-ROMの盤面のイラストを作成します。なお、実際にIllustratorで作成したデータが特別付録CD-ROMの「6_Saturday」フォルダに入っていますので、参考にしてください。

2 ツールボックスの［長方形］ツールを選択します。このとき、塗りの色は［なし］にします。

3 Altキーを押しながら円の中心をクリックします。

4 ［長方形］ダイアログボックスで［幅］を［124］mm、［高さ］を［124］mmの正方形に設定して［OK］ボタンをクリックします。

5 円の中心から指定の寸法で正方形が描かれました。CDレーベルの周囲に1mmの余白ができたことになります。

6 線に色がついていれば、ツールパレットで線の色を［なし］にします。

❼ 線の色がなくなりました。

❽ ［ファイル］メニュー→［保存］（Ctrlキー＋S）で保存します。

❾ ファイル名を「CDレーベル.ai」にして［ファイル形式］は［Illustrator］のまま［保存］ボタンをクリックします。

❿ ［Illustrator形式］ダイアログボックスの設定は［8.0］にして［OK］ボタンをクリックします。

⓫ 続いて、［ファイル］メニュー→［データ書き出し］を選択します。

⓬ ［ファイル名］は［CDレーベル.psd］で、［ファイル形式］を［Photoshop 5］に設定します。

⓭ ［Photoshop オプション］ダイアログボックスが出てきます。［解像度］は［標準（150dpi）］にします。ここでは曲線をきれいに見せるため、そしてレイヤーを維持するために、［アンチエイリアス］と［レイヤーを保持］にチェックを入れておいてください。

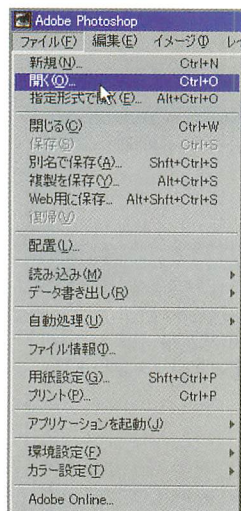
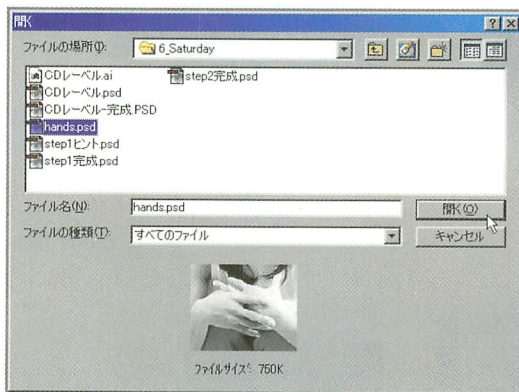
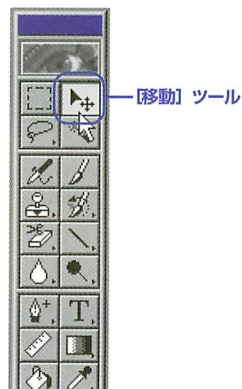
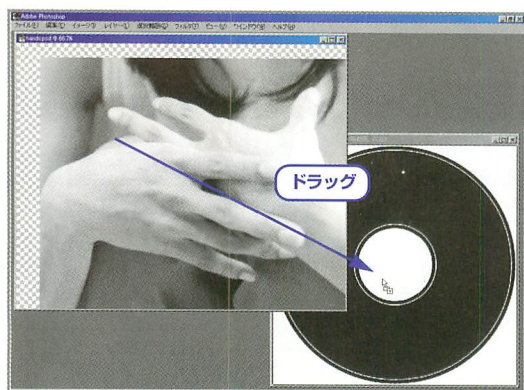
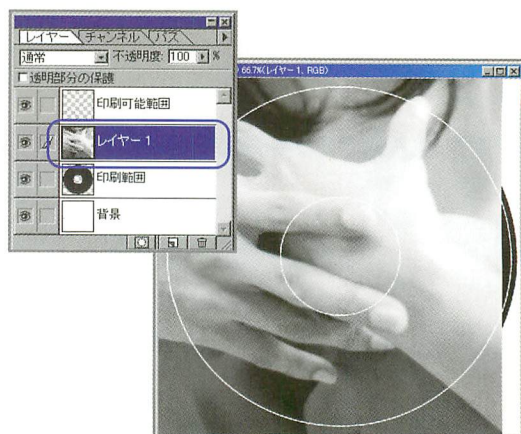
☞ヒント!!

印刷所にデータ入稿するときの注意

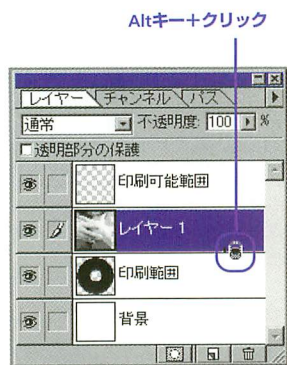
実際のCDレーベルはシルク印刷にすることもあり、解像度などの設定が一般の印刷物と異なります。使える色数に制限があることも多いので（一般的には特色2色程度）、印刷所に確認してから作業を始めるようにしてください。

⓮ Illustrator形式のファイルとPhotoshop形式のファイルがそれぞれできあがりました。

メインの写真を取り込む

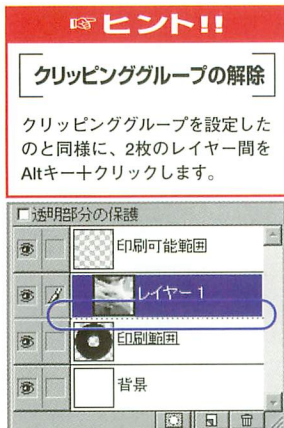
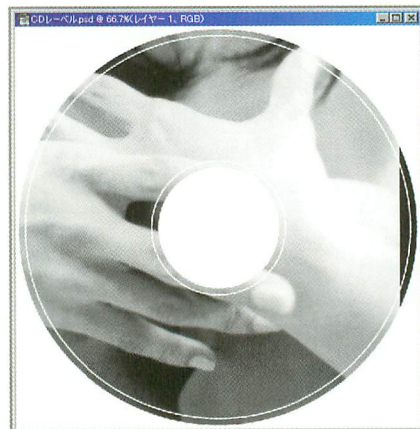
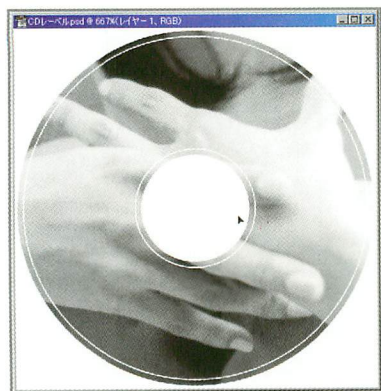
CDジャケットでも使用した手の写真を、ドラッグ&ドロップで取り込みましょう。

1 [ファイル] メニュー→ [開く] を選択します。

2 「6_Saturday」フォルダの中の「hands.psd」を選択します。

3 ツールボックスから [移動] ツールを選択します。

4 手の写真を、先に開いた「CDレーベル.psd」にドラッグ&ドロップします。

5 「CDレーベル.psd」のレイヤー([印刷範囲] レイヤー)の上に、新しいレイヤーとして取り込まれます。

ドーナッツでマスクする

「クリッピンググループ」という機能を使って、取り込んだ写真をドーナッツの中に入れてみましょう。「クリッピンググループ」は、名前こそマスクとなっていませんが、手軽に使用できるマスクとして知っておくととても便利です。

1 [レイヤー]パレットの[印刷範囲]レイヤーと[レイヤー1]レイヤーの間にマウスポインタを合わせて、Altキーを押してみてください。ポインタが図のように変わりますので、その位置でクリックします。

☞ヒント!!

クリッピンググループの解除

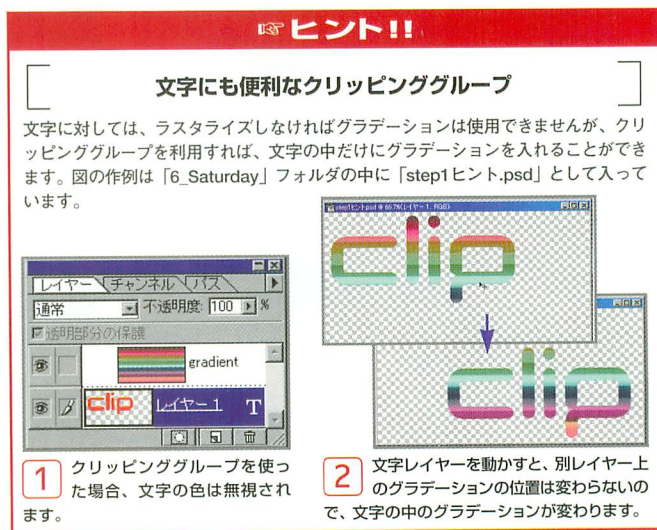
クリッピンググループを設定したのと同様に、2枚のレイヤー間をAltキー+クリックします。

2 レイヤーの間の線が破線になり、[レイヤー1] の写真の位置が右にずれます。これがクリッピンググループと呼ばれる状態になったことを示しています。

3 クリッピンググループは、上のレイヤーが下のレイヤーの範囲内だけに表示される機能です。つまり写真がドーナッツの中だけ表示されるのです。

4 [移動] ツールで写真をドラッグして、ドーナッツの中にきれいに収めましょう。

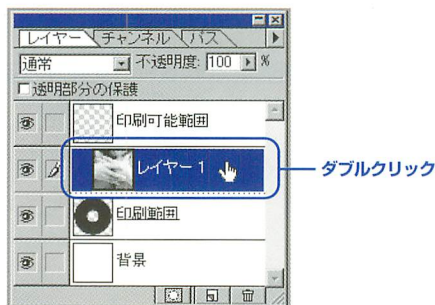
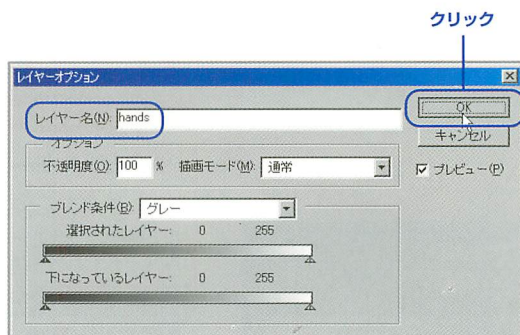
☞ヒント!!

文字にも便利なクリッピンググループ

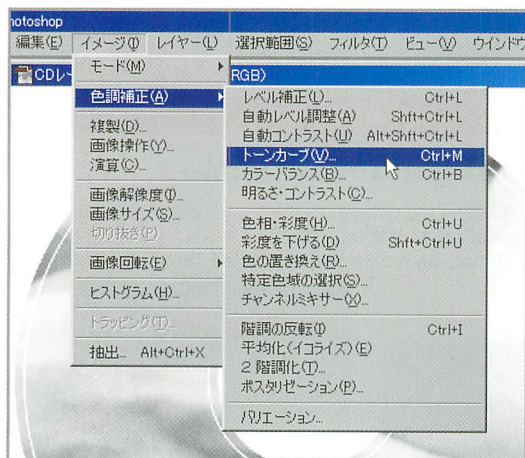
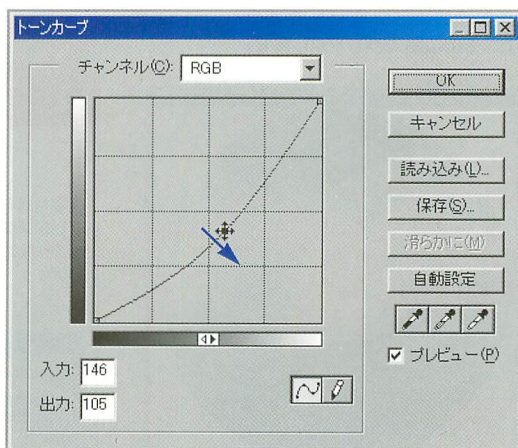
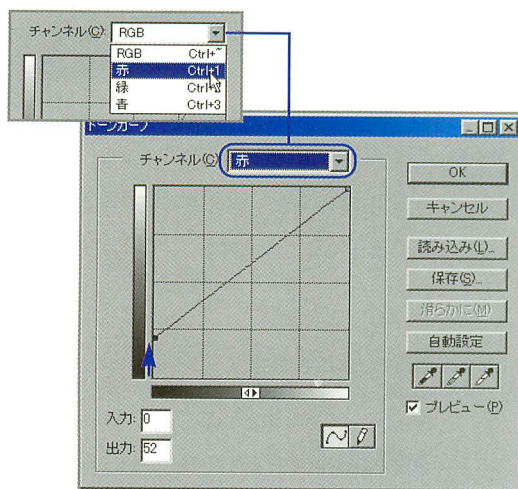
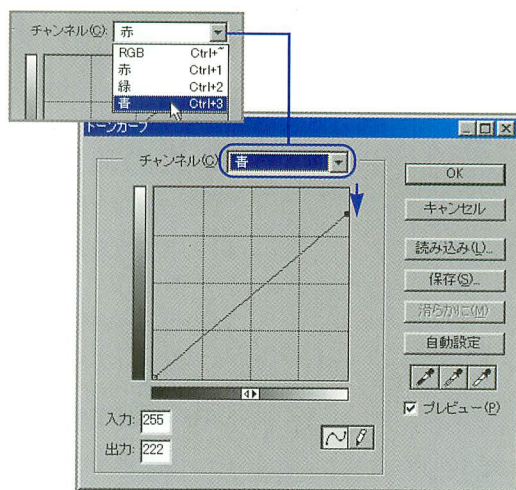
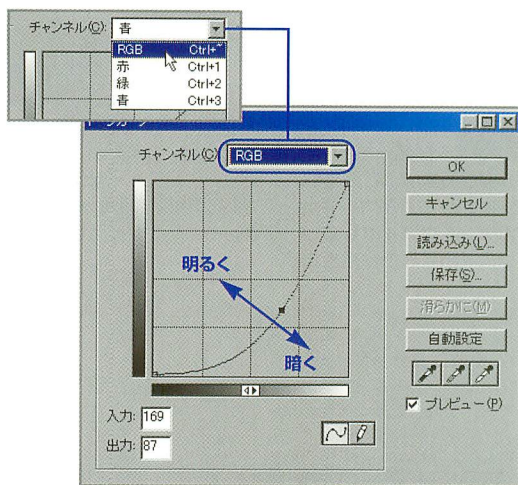
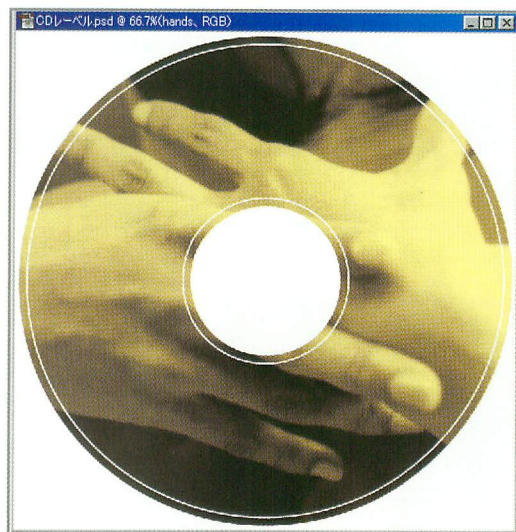
文字に対しては、ラスタライズしなければグラデーションは使用できませんが、クリッピンググループを利用すれば、文字の中だけにグラデーションを入れることができます。図の作例は「6_Saturday」フォルダの中に「step1ヒント.psd」として入っています。

1 クリッピンググループを使った場合、文字の色は無視されます。

2 文字レイヤーを動かすと、別レイヤー上のグラデーションの位置は変わらないので、文字の中のグラデーションが変わります。

レイヤーの名前を変更する

取り込んだ写真のレイヤーは、名前を「レイヤー1」から「hands」に書き変えます。

1 [レイヤー] パレットの [レイヤー1] をダブルクリックします。

2 [レイヤーオプション] ダイアログボックスが現れますので、[レイヤー名] を「hands」と書き変えて [OK] ボタンをクリックします。

写真に色をつける

取り込んだ写真はグレースケールです。この写真に色をつけてみましょう。今回は「トーンカーブ」を使ってみます。

1 [イメージ] メニュー→ [色調補正] → [トーンカーブ] (Ctrlキー＋M) を選択します。

2 [トーンカーブ] ダイアログボックスが現れます。[チャンネル] は [RGB] のままで、グラフの中央を少し下げます。全体が暗くなります。

3 次に［チャンネル］をプレスして［赤］に切り替え、グラフの左端を少し上にドラッグします。写真の暗い部分に対して、赤を強くしたことになります。

4 今度は［チャンネル］を［青］に切り替え、グラフの右端を少し下にドラッグします。写真の明るい部分に対して青を弱くしたことになります。青を弱くするということは、反対色の黄色になります。

5 ［チャンネル］を［RGB］に戻して、明るさを再度調整して、［OK］ボタンをクリックします。

6 写真の暗い部分は赤みが強く、明るい部分は黄色っぽくなりました。

パターンとストローク

このステップの流れ

前ステップで取り込んだ手の写真に、水玉模様とブラシストロークを合成します。写真だけのときよりも、もっと印象的な作品になります。

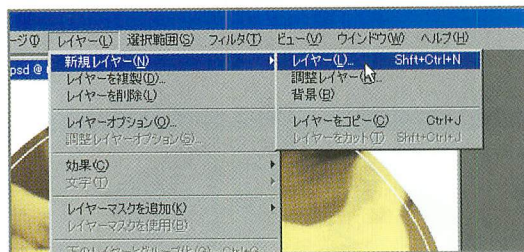
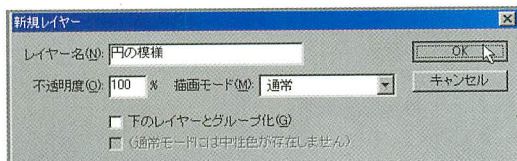
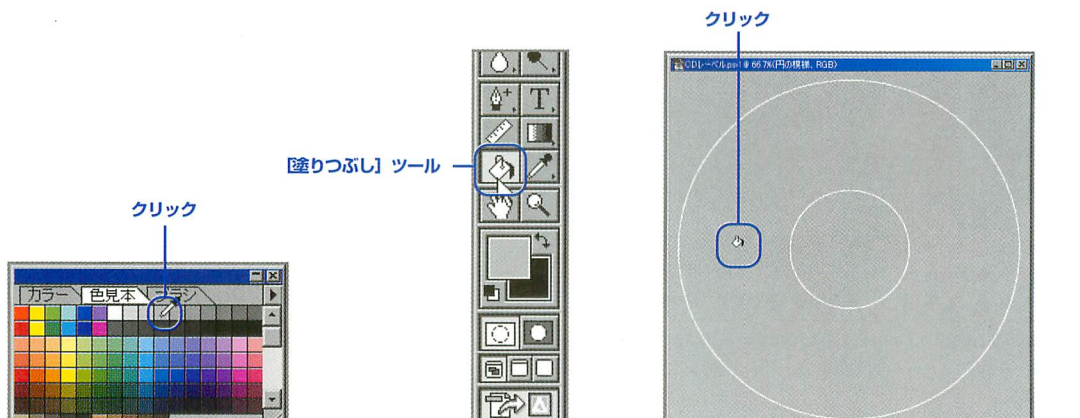
(1) 水玉模様を作る

「カラーハーフトーン」フィルタを使って、水玉模様を作ってみましょう。

(2) 水玉模様を合成する

「覆い焼き」という描画モードで、水玉模様を合成します。

(3) ブラシストロークを作る

［ブラシ］ツールとフィルタを使って、勢いのあるストロークを作成します。

1 ［レイヤー］パレットで［hands］レイヤーが選択された状態で、［レイヤー］メニュー→［新規レイヤー］→［レイヤー］を選びます。

2 ［新規レイヤー］ダイアログボックスが現れます。［レイヤー名］を［円の模様］として、［OK］ボタンをクリックします。ここでは［レイヤー］メニューを使いましたが、もちろん［レイヤー］パレットの［新規レイヤー］ボタンをクリックしても［新規レイヤー］ダイアログボックスを出すことができます。

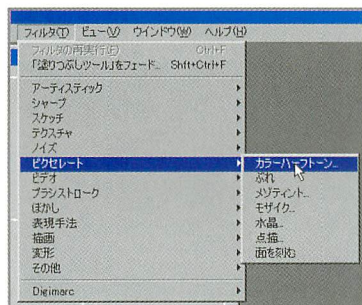
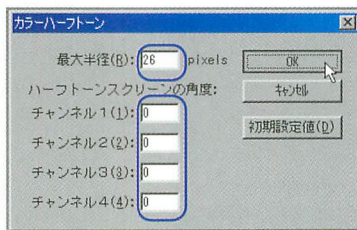
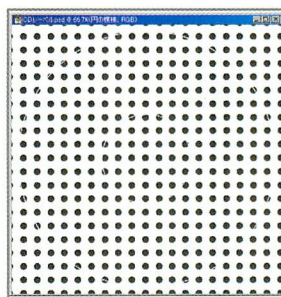
3 ［レイヤー］パレットで確認すると、［hands］レイヤーの上に［円の模様］レイヤーができています。

水玉模様を作る

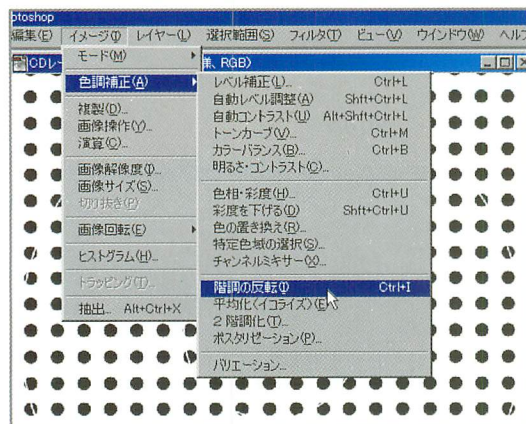
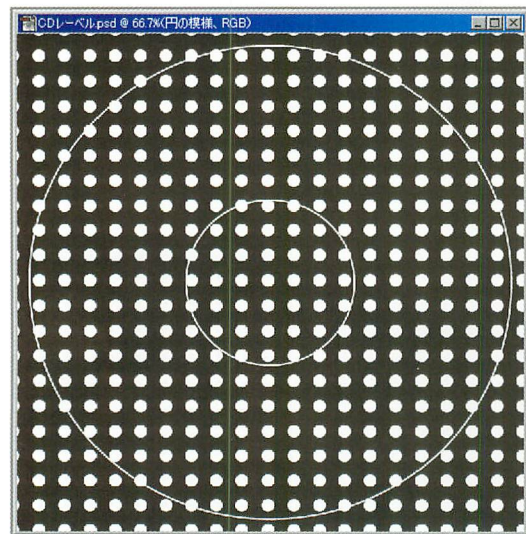
ちょっとおもしろい方法で水玉模様を作ってみます。階調を判断できるPhotoshopならではの、とっておきの方法です。

1 [色見本] パレットから、明るめのグレーを選びます。

2 ツールボックスから [塗りつぶし] ツールを選びます。

3 画面のどこでもいいので、クリックします。もちろん [塗りつぶし] ツールの代わりに、ショートカットのAlt＋Deleteキーでもかまいません。

4 [フィルタ] メニュー→ [ピクセレート] → [カラーハーフトーン] を選びます。

5 [最大半径] を [26] ピクセルにし、[ハーフトーンスクリーンの角度] を、すべてのチャンネルで [0] にして、[OK] ボタンをクリックします。

6 グレーが白黒のドットに置き換えられて、水玉模様ができあがりました。

水玉模様の白黒反転

ここでは白い水玉を使いたいので、「階調の反転」を使って、白黒を反転します。

1 [円の模様] レイヤーが選ばれている状態で、[イメージ] メニュー→ [色調補正] → [階調の反転] を選びます。

2 水玉模様の黒が白くなります。

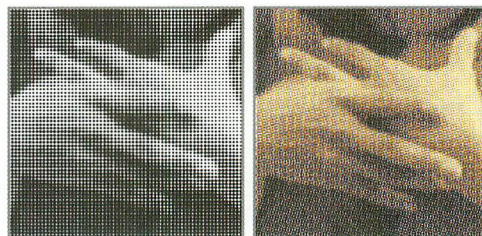
ヒント!!

「階調の反転」のショートカット

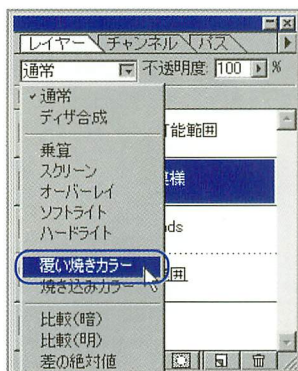
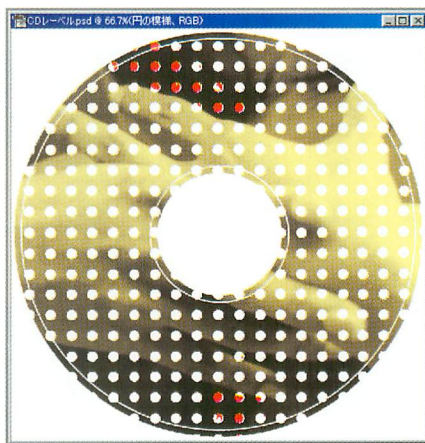
「階調の反転」のショートカットは、Ctrlキー+I（数字の1ではなくアルファベットのIです)。Invert（反対にする）のIです。

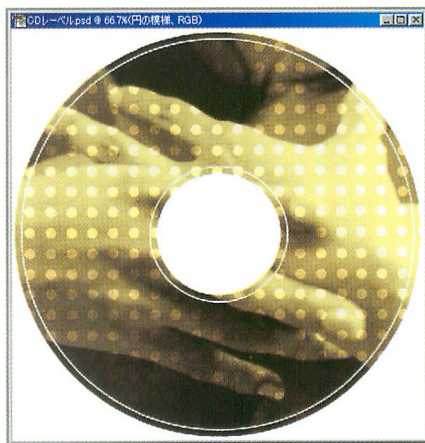
ヒント!!

「カラーハーフトーン」の本当の使い方

実は、「カラーハーフトーン」フィルタは、水玉作りのフィルタではありません。写真の濃淡をCMYKの4色のドットで表現するフィルタです。暗い部分は大きなドットで、明るい部分は小さなドットで階調を表現します。色の角度を調整して、なるべく重ならないようにしてきれいなパターンを作ります。シルクスクリーンなどの版画的効果を出したいときや、写真の網点をコントロールするときに使います。

▲手の写真に対して、「カラーハーフトーン」を使った例。左は角度をすべて0にしているので、4色のドットが重なり、黒くなっています。右はそれぞれの色の角度を変えたものです。

水玉模様を合成する

レイヤーの「描画モード」を「覆い焼きカラー」にして、水玉模様を写真に合成します。「覆い焼きカラー」モードでは、黒い部分が無視されるので、白い水玉だけが合成されます。

1 [円の模様] レイヤーが選ばれている状態で、[レイヤー] パレットの [描画モード] を [覆い焼きカラー] に切り替えます。

2 水玉模様の黒い部分が透明になり、下にあった手の写真が見えてきます。このままでは水玉が目立ちすぎなので、不透明度を変えてみましょう。

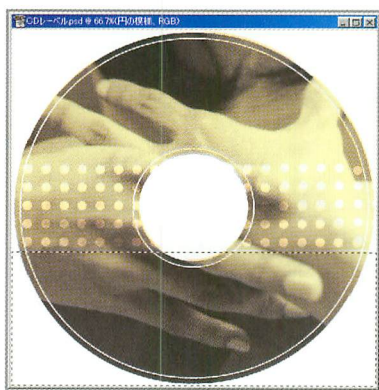
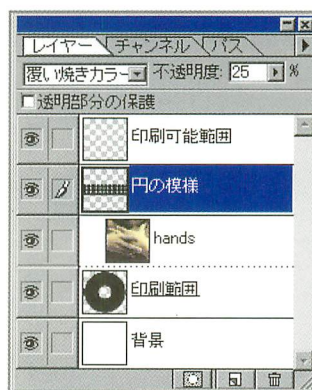
3 [円の模様] レイヤーが選択されている状態で、[レイヤー] パレットの [不透明度] を [25] %程度にします。

4 水玉が薄くなって、自然な感じで写真に合成することができました。

水玉模様を部分的に削除する

全面に水玉模様が入っているとちょっとうるさい感じがしますから、上下とも3分の1程度を削除して、中心部分だけ残しましょう。

1 ツールボックスから［矩形選択］ツールを選びます。

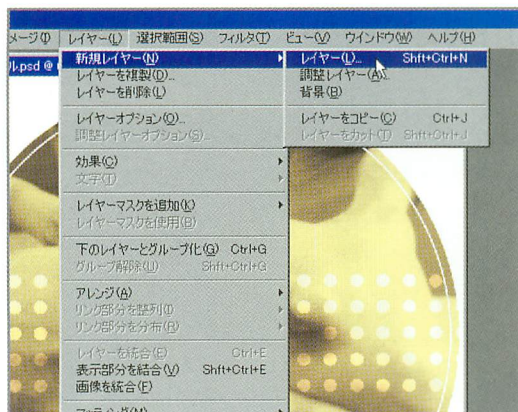
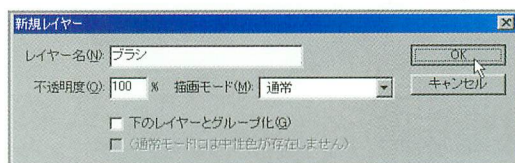
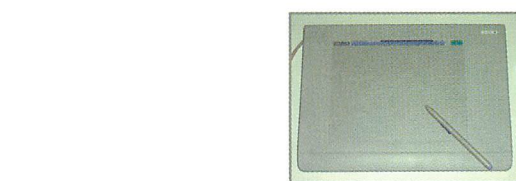
2 上から3分の1程度をドラッグして選択します。

3 Deleteキー（またはBackspaceキー）を押して水玉模様を削除します。

4 同様に、下から3分の1くらいを選択して削除してください。

5 これで水玉模様の作業は終了です。続いて、ブラシストロークの作業に入ります。

ブラシストロークの作成

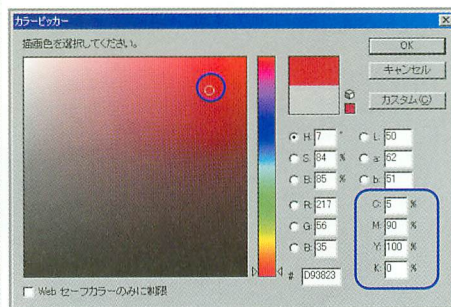
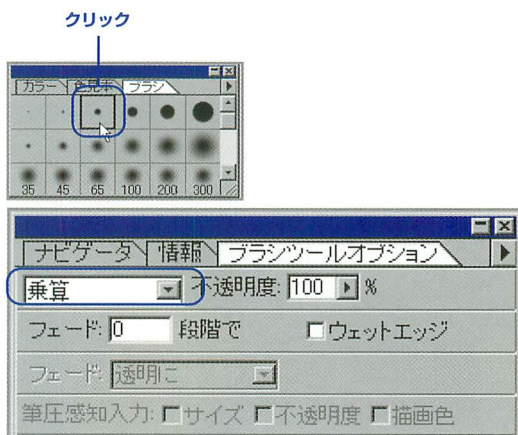
ブラシツールで勢いのある線を描き、アクセントを付けましょう。勢いといっても、筆圧感知のペンやタブレットを使っているわけではないので、「フィルタ」を効果的に使って、勢いのある線を作り出します。

☞タブレット

ペンを使って、手書きのように絵や線を描く装置。筆圧に反応して微妙な強弱も表現できます。

1 ［円の模様］レイヤーが選ばれている状態で、［レイヤー］メニュー→［新規レイヤー］→［レイヤー］を選びます。

2 ［新規レイヤー］ダイアログボックスが出てきます。［レイヤー名］を［ブラシ］として、［OK］ボタンをクリックします。

3 ［レイヤー］パレットで確認すると、［円の模様］レイヤーの上に［ブラシ］というレイヤーが作成されました。

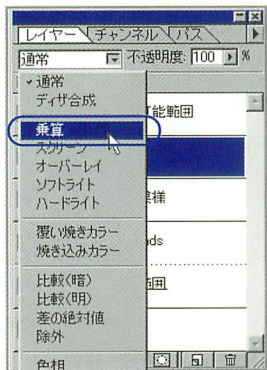
4 ツールボックスから［ブラシ］ツールを選びます。

5 ツールボックスの［描画色］アイコンをクリックして、［カラーピッカー］で、［C：5%］、［M：90%］、［Y：100%］、［K：0%］の赤を設定します。

6 [ブラシ] パレットから、中くらいの大きさのブラシを選びます。はみ出してもかまいませんので、ドラッグしてレーベルの上の方に、線を1本適当に描きます。

7 今度は、さきほどよりも小さいブラシを選んでください。[ブラシツールオプション] パレットで、[描画モード] を [乗算] に切り替えます。

8 さきほどの線の上に、もう1本細い線を描きます。[乗算] にしているので、線の重なった部分が濃くなります。

9 適当に数本の線を描いてください。

ブラシストロークを合成する

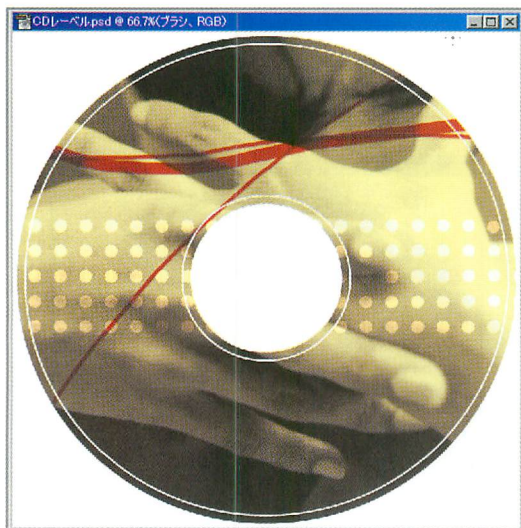
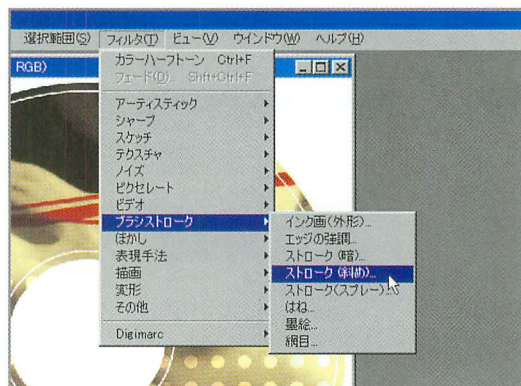
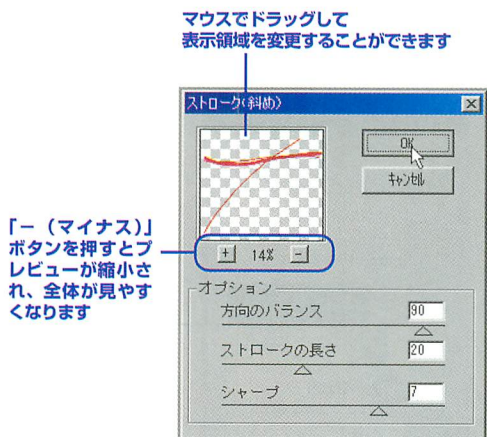
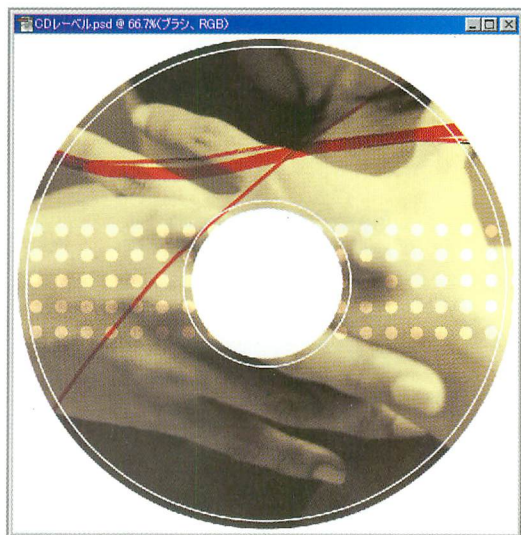
では、描いたブラシストロークを、写真の上に直接マーカーで描いたようにしてみましょう。「描画モード」の「乗算」の使い方がポイントです。

1 [レイヤー] パレットの [描画モード] を [乗算] にします。

2 ブラシストロークが、写真にマーカーで描いたように合成されましたよね。

フィルタでストロークの勢いを出す

「ブラシストローク」フィルタを使って、抑揚のない線を筆で描いた勢いのある線に変えてみます。

1 [レイヤー] パレットの [ブラシ] レイヤーをドラッグして、[円の模様] と [hands] レイヤーの間に持っていきます。

2 続けて、[ブラシ] と [hands] レイヤーの間の線を、Altキーを押しながらクリックして、クリッピンググループにします。

3 これで、ドーナッツ形からはみ出していた線が隠れました。

4 [フィルタ] メニュー→ [ブラシストローク] → [ストローク (斜め)] を選びます。

5 [ストローク (斜め)] ダイアログボックスが出てきます。[方向のバランス] を [90]、[ストロークの長さ] を [20]、[シャープ] を [7] に設定し、[OK] ボタンをクリックします。

6 ブラシで描いた線がかすれて、筆で描いたような勢いのある線に仕上がりましたよね。

文字を加工する

このステップの流れ

さて、いよいよCDレーベルの仕上げです。文字を入れて、写真に味付けをして完成させます。

(1) CDタイトルとアーティスト名を入れる

CDタイトルとアーティスト名を入力します。

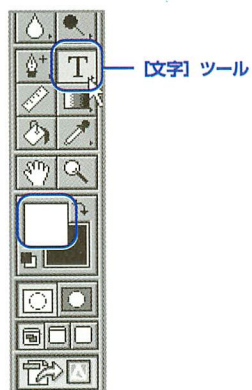
(2) 曲名を入れる

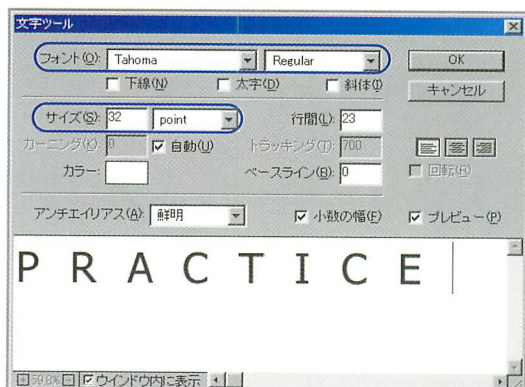
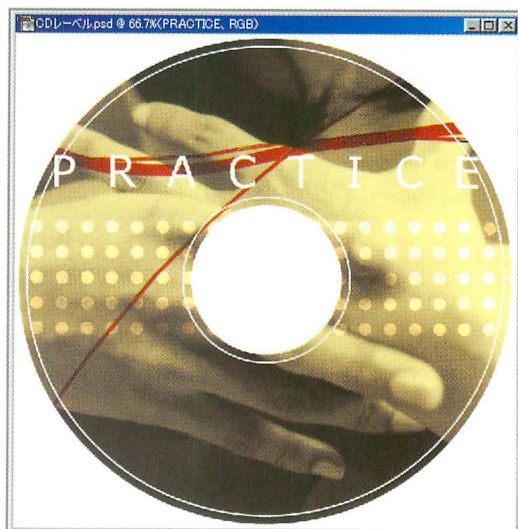
レーベルの下半分に、曲名を入力します。

(3) 背景の写真に質感を付ける

背景のメインの写真に「ノイズ」フィルタをかけて、しっとりとした印象に仕上げます。

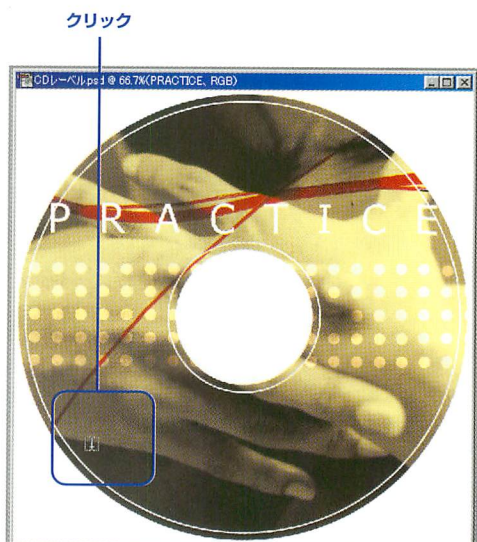
CDタイトルとアーティスト名を入れる

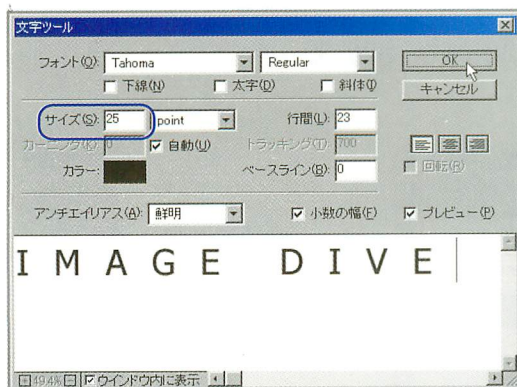
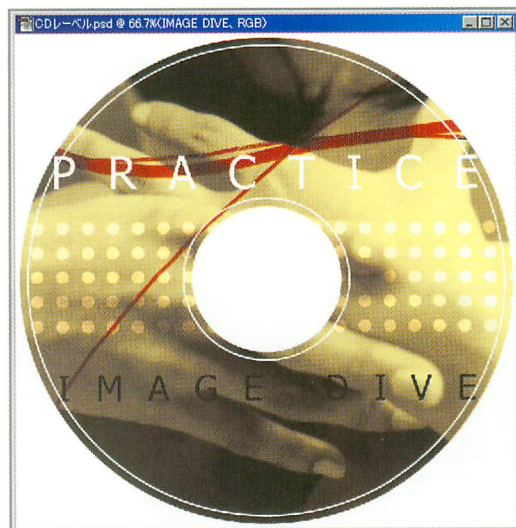
レーベルの上と下に、CDタイトルとアーティスト名を、それぞれ白と黒で作成します。

1 ツールボックスから［文字］ツールを選択します。［描画色］は［白］にしてください。

2 レーベルの左上を、［文字］ツールでクリックします。

3 ［文字ツール］ダイアログボックスが現れるので、入力ボックスに「PRACTICE」と入力します。ここでは［フォント］を［Tahoma］の［Regular］に、［サイズ］を［32］ポイントにしています。同じフォントがなければ、適当なフォントを選んでください。

4 クリックした位置に、「PRACTICE」という白い文字が作成されます。

5 ［レイヤー］パレットにも［PRACTICE］という文字レイヤーができていますよね。

［初期設定カラー］アイコン

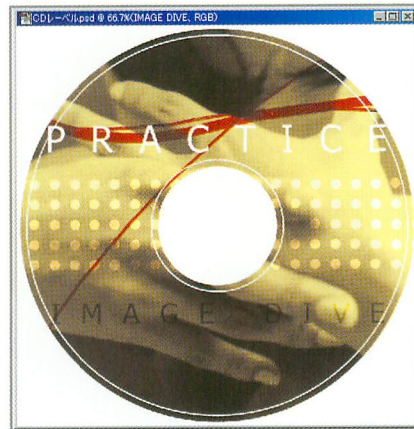
6 ツールボックスの［初期設定カラー］アイコンをクリックして、描画色を黒にします。

クリック

7 レーベルの左下を、［文字］ツールでクリックしてください。

8 [文字ツール] ダイアログボックスの入力ボックスに「IMAGE DIVE」と入力します。[フォント] はそのままで、[サイズ] を小さく（ここでは [25] ポイント）します。

9 レーベルの左下に [IMAGE DIVE] と、今度は黒い色で文字が入りました。必要なら [移動] ツールで位置を調整してください。

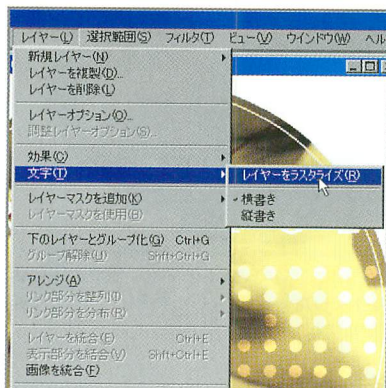
文字を合成する

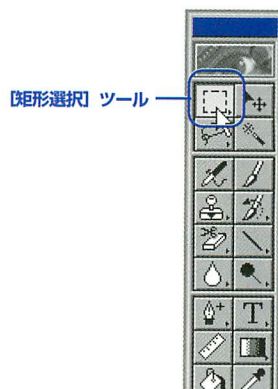
入力した文字を「ソフトライト」で背景の写真に合成してみましょう。

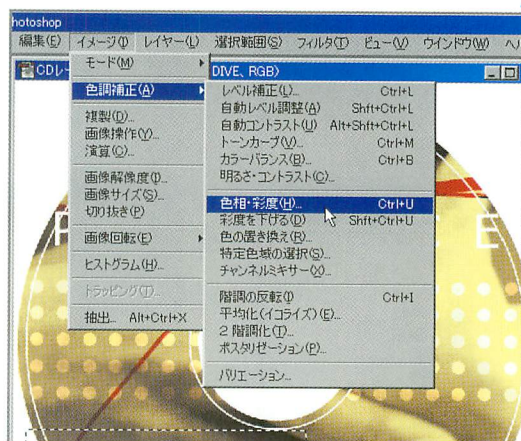
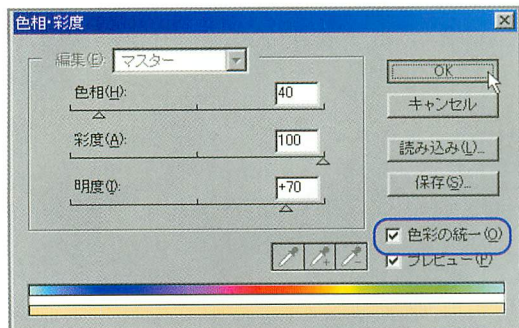
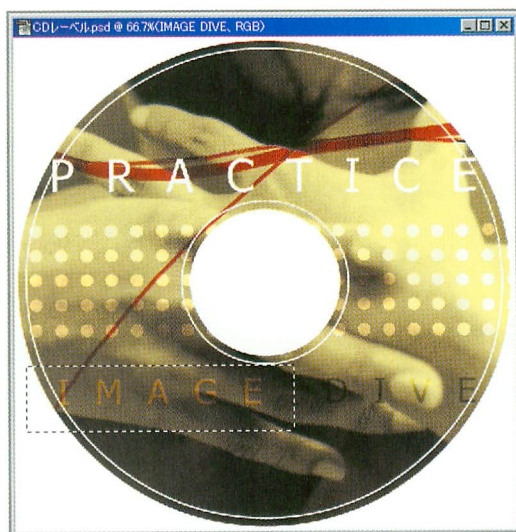
1 [IMAGE DIVE] の文字レイヤーが選択されていることを確認してください。

2 [レイヤー] パレットの [描画モード] を [ソフトライト] に切り替えます。

3 [IMAGE DIVE] という文字が、バックの写真に溶け込んだようになります。

文字の色を変える

これから文字の色を変えてみます。ここでは「色相・彩度」コマンドを使いますが、文字はそのままでは「色相・彩度」が使えません。文字を画像として扱うため「ラスタライズ」を実行して、画像と同じ状態にしておく必要があります。

1 色調を変更するための準備として、文字をラスタライズします。[IMAGE DIVE]レイヤーを選択し、[レイヤー]メニュー→[文字]→[レイヤーをラスタライズ]を選択します。

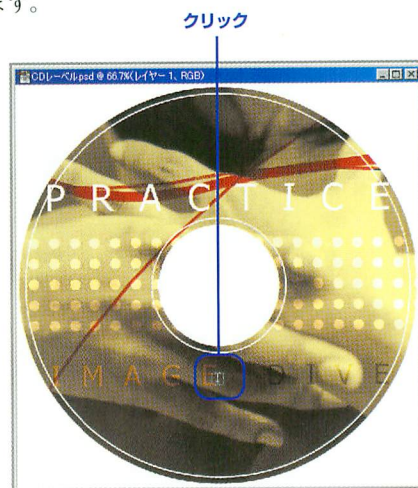
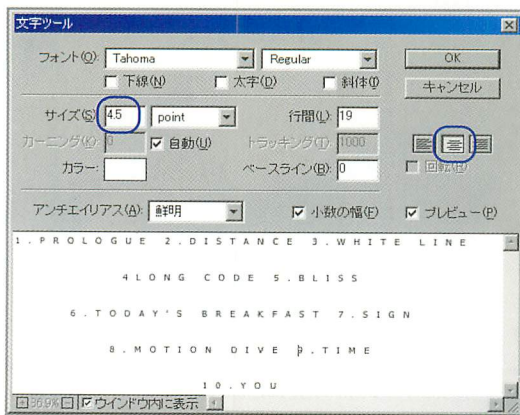
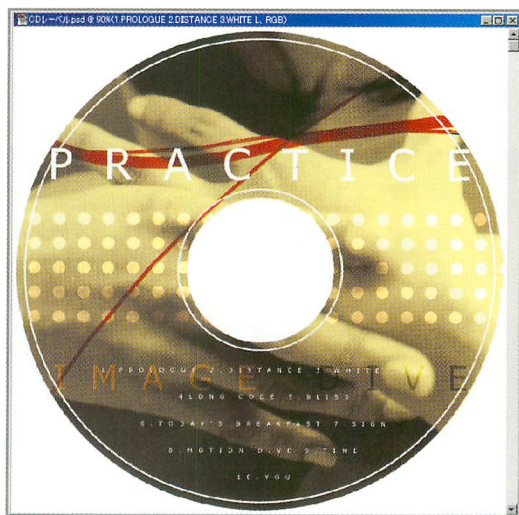
2 [レイヤー]パレットでは[IMAGE DIVE]レイヤーの[T]のマークが消えたことを確認してください。これで画像と同じ状態になったわけです。

3 ツールボックスから[矩形選択]ツールを選びます。

4 「IMAGE」の部分だけをドラッグして囲みます。文字といっても、この段階ではすでに画像になっているので、[選択]ツールで選ぶ必要があるのです。

5 [イメージ]メニュー→[色調補正]→[色相・彩度]を選択します。[レイヤーをラスタライズ]を実行していないと[色調補正]は選べません。

6 ［色相・彩度］ダイアログボックスで、［色相の統一］にチェックを入れてオンにし、［色相］を［40］、［彩度］を［100］、［明度］を［＋70］に設定します。

7 選択範囲の［IMAGE］という文字の色が変わりました。

曲名を入れる

レーベルの下に、文字色を白にして、中央揃えで曲名を入力します。

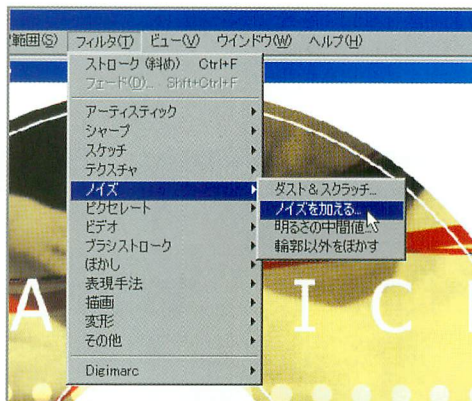
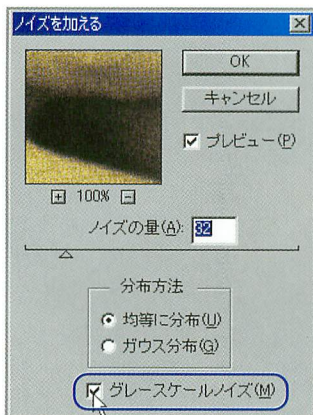
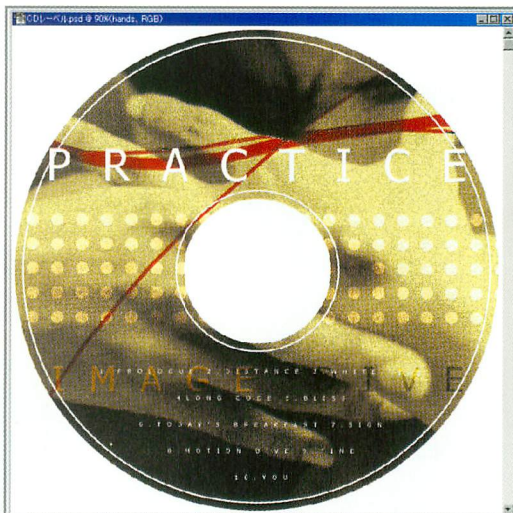
1 文字色を白にしたいので、ツールボックスの［描画色と背景色を入れ替え］ボタンをクリックします。または、［カラー］パレットから白を選んでもかまいません。

2 ツールボックスから［文字］ツールを選択します。

3 レーベルの下の中央をクリックします。

4 [文字ツール] ダイアログボックスが現れます。フォントはそのままで、[サイズ] を [4.5] ポイント、[行間] を [19]、[行揃え] を [中央揃え] にして、入力ボックスに曲名を入力します。曲名は169ページを参照してください。

5 設定したとおりに、曲名のリストが作成されました。

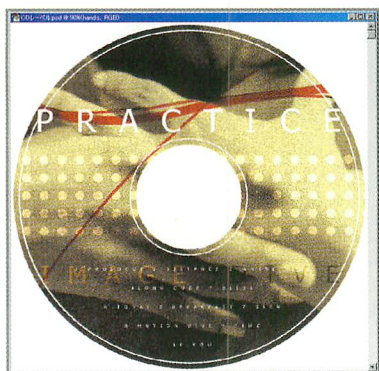
6 [レイヤー] パレットに曲名の文字レイヤーが作成されました。

ノイズをかける

「ノイズ」フィルタを使って［hands］レイヤーに質感を与えれば、いよいよCDレーベルの完成です！

1 ［レイヤー］パレットの［hands］レイヤーをクリックして選択します。

2 ［フィルタ］メニュー→［ノイズ］→［ノイズを加える］を選択します。

3 ［ノイズを加える］ダイアログボックスで［ノイズの量］を［32］に設定し、［グレースケールノイズ］にチェックを入れて［OK］ボタンをクリックします。

4 ノイズをかけた状態です。全体的にザラッとした質感になります。これで完成です。お疲れさまでした。余力のある人は、次のページに進んでプリントしてみましょう。

CDレーベルをプリントしてみよう

最近、CDレーベルを作成する「CDラベルキット」なるものが売られているのをご存じですか？　今回はそれを使ってプリントしてみました。結構楽しめます。皆さんもぜひトライしてください！

1 [印刷可能範囲] レイヤーは、実際にはプリントしたくありませんし、もう使いませんので、捨てておきましょう。

2 [レイヤー] パレットの [印刷可能範囲] レイヤーを [ゴミ箱] アイコンまでドラッグします。

3 [レイヤー] パレットの [印刷可能範囲] レイヤーが消え、印刷可能範囲を示す白い線の縁取りも消えました。

4 [ファイル] メニュー→ [プリント] (Ctrlキー＋P) を実行して印刷します。

5 印刷したら、実際にCDとパッケージを作ってみましょう。